

## 2014 遺愛演劇部の高文連発表を観劇して

10月11・12日（土・日）に函館市芸術ホールで、第64回高文連道南支部演劇発表大会がありました。遺愛演劇部も『選択の日々』という演題で12日（日）16:50より発表しました。

内容は…近未来の日本では、子どもの時に遺伝子能力検査が実施されて、その結果に従って将来の進路が決定されてしまう世の中になっている。検査結果により、3人の女子高生の「さくら」は歌手、「ひのき」は国会議員、「やなぎ」はゴミ収集者になることを方向づけられ、そのための努力を強いられていた。しかし、「さくら」の本当の夢は樹木の研究者、「ひのき」の夢は歌手だった。「ひのき」は、親の強い期待（子どもの成功が親の幸福）を背負い、国会議員をめざし頑張ろうとするが、歌手の夢を捨てきれず、勉強に集中できない。自分の夢を「さくら」に託し、「さくら」に努力を強いる。

しかし「さくら」は「やなぎ」の「あの友達のいいように動かされている」という言葉から本当の自分の夢に気づき、「ひのき」と別れ、親を説得し樹木研究者の道を進むことにした。1人になった「ひのき」は、「国会議員になった後どうするの?」という「やなぎ」の言葉に啓発されて、もう一度主体的に自分の道を考え直し、遺伝子能力検査で将来を拘束されない新しい社会を創り出すという夢を抱いて、国会議員の道をあえて進む選択をする…というものでした。

とても面白い演劇でした。特に、親の強い期待・願い（子どもの幸せのためと言いつつ、実は親自身の幸福のため）に押しつぶされてしまいそうな子どもの姿を上手に表現していました。また、「さくら」「ひのき」の2人とも、「やなぎ」という友人の言葉に影響され、主体的に自分の未来を選びとっていく姿に希望を感じました。生徒自らが作ったオリジナル脚本で、とても巧みに演じており、大変素晴らしかったと思います。2014年10月15日（水）

